

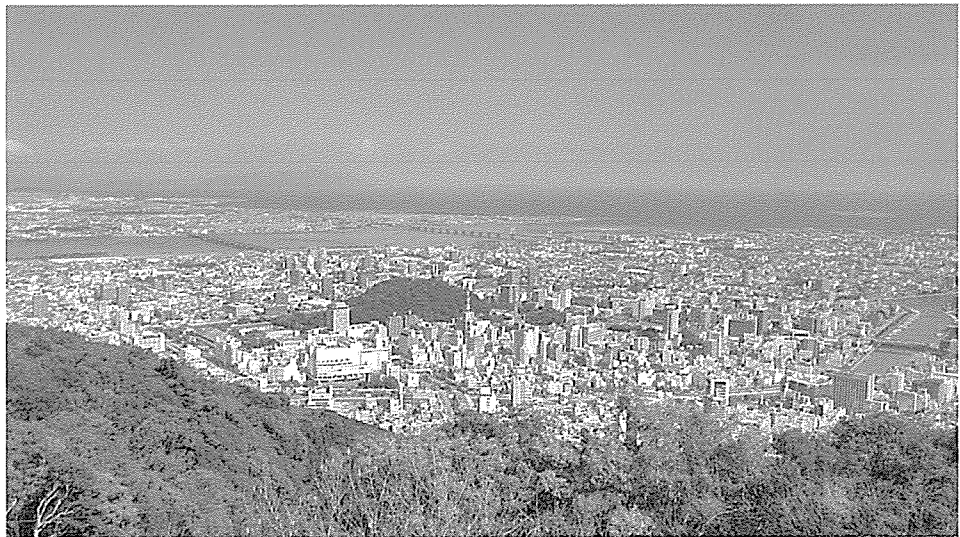
# 国内研修報告書

in 徳島

2023.10.25 Wed-26 Thu



目黒女性団体連絡会



眉山より徳島市街を望む

## 2023年度 目黒女性団体連絡会国内研修 記録

### 目次

1. 2023年度 目黒女性団体連絡会国内研修報告書
  
2. 徳島市役所 内藤佐和子市長にお会いして
  
3. 徳島県立男女共同参画総合支援センター（ときわプラザ）訪問
  - ときわプラザの概要
  - 事前質問への回答として
  - 徳島県女性協議会との交流会
  - 参加団体(7団体)の活動と報告
  - 施設案内とフレアキャンパス講座について
  - 女性差別撤廃条約 選択議定書意見書に関連して
  
4. 徳島市男女共同参画センター訪問
  - センターの概要と事業報告
  - 徳島市男女共同参画推進ネットワークについて
  - 講座のチラシ
  
5. 徳島県上勝町 ゼロ・ウェイストセンター
  - 上勝町ゼロ・ウェイスト の歴史
  - 事前学習～ 「東京のゴミ問題は怎么样了の」
  
6. 国内研修に参加して （感想）

## 令和5年度 目黒女性団体連絡会国内研修報告書

1. 実施日：2023年10月25日（水）～26日（木）
2. 研修先：徳島市役所  
徳島県立男女共同参画総合支援センター（ときわプラザ）  
徳島市男女共同参画センター  
上勝町ゼロ・ウェイストセンター
3. 研修目的：都道府県版ジェンダーギャップ指数の調査結果から、行政と経済で全国2位の徳島県の施策から男女格差を縮めるヒントや「県、市、町」それぞれの好事例に学び目黒区に活かしたい。
4. 研修内容：  
＜1日目＞ ①徳島市役所、内藤市長表敬訪問  
②徳島県立男女共同参画総合支援センター（ときわプラザ）  
・概要説明と徳島県女性協議会との交流会、日ごろの活動状況や、男女格差についての意見交換  
③上勝町ゼロ・ウェイストセンター  
・ごみを減らし、資源として循環させる「ゼロ・ウェイスト」の分別を直接体験し、ごみ減らしの「3つのR」を学ぶ  
・HOTEL WHI という施設に宿泊し、無い無い尽くしの生活体験  
＜2日目＞ ④徳島市男女共同参画センター  
・概要説明と徳島市のジェンダーギャップ指数の説明
5. 日程：  
10月25日 08:55 羽田発 ANA 281 徳島空港着 10:10  
11:00 市長表敬訪問  
13:00 徳島県立男女共同参画総合支援センター  
16:30 上勝町ゼロ・ウェイストセンター STUDY  
10月26日 08:30 ゴミ分別体験  
11:00 徳島市男女共同参画センター  
15:30 徳島空港発 ANA 284 羽田着 16:50
6. 参加者：奥山利子（ウイメンズめぐろ）  
大本郁子（男女平等条例を推進する会）  
小林美和子（めぐろ学習グループ連絡会）  
深山キクエ（新日本婦人の会目黒支部）  
吉田啓子（めぐろジェンダー平等の会）



## 内藤佐和子市長にお会いして

深山 キクエ

10月25日（水） 11:10～11:40 徳島市役所にて

徳島市長 内藤佐和子さんは、徳島県初の女性首長であり、(2022年4月～)、日本で最年少の女性首長です(2022年現在)。第一印象は親しみやすくさわやかでした。

事前に目黒区長からごあいさつの電話をしたとき、以前目黒に住んでいたことや、目黒区男女平等・共同参画センターだより『であいきらり』(第74号)で取りあげた「ものづくりの現場からはじめる女性活躍」講座レポートの佐藤修哉氏と友人だということを知り、話はずんだそうです。私たちもご縁を感じ、話が盛りあがりました。

大学卒業後東京にいたころ、ふるさと徳島がさびれていく様子を知り、男性だけの政治では発展性がないと感じ、市長選が無投票になりそうだったので立候補したそうです。

「大学の最後に地元に戻らずいぶんさびれていた。映画館がなくなり、郊外にショッピングセンターができ、街中がさびれてだめになっていくと感じた。ビジネスベンチャーに関心があり、2009年『地域活性コンテスト』を提案し、実施。次の展開として中心市街地をどうしたら盛りあげられるかを考えていた。」とのこと。

徳島市は保守的なところが多いが、経済5団体のうち3つのトップが女性。自分が市長になったころから首長になる女性が増えてきた。8市のうち2市が女性首長、全国的にも少しずつ増えてきた。

若い人に政治参加をとの思いから、先日、中学校の生徒会役員と給食懇談をし、タブレットやトイレの問題などが話題になった。市庁舎にインターンに来るようにと誘ったら、今まで2人が来た。そういうことを通して政治を身近に感じてもらい、男性中心の政治に女性の力を発揮していけるようにしたい。

防災については、徳島では南海トラフが来るという危機感があって地区ごとに防災組織が作られている。「ママ防災士の会」があり、30代40代が多く若い発想で女性の視点を生かして、生き生きと活動している。…等々

次々と話される内容は、市長として徳島市を活性化していきたいというふるさと愛があふれていました。

さまざまな分野できめ細かに計画しつつ積み重ねていらっしゃる様子が伝わってきました。

お忙しい中時間を割いてくださり、有意義なお話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。



市長室で懇談

## 徳島県立男女共同参画総合支援センター（ときわプラザ）訪問

大本 郁子

10月25日（水）13:00～15:00



ときわプラザ全景

徳島県立男女共同参画総合支援センター（以下ときわプラザという）学習室にて徳島県女性協議会メンバーの皆さんと交流する。日頃の活動状況や、「ジェンダー視点からのくらし」などについて懇談。その後、施設見学。センターの運営状況や指定管理者制度等の説明を受ける。

### 交流会参加者

徳島県から、大西課長（徳島県男女参画・人権課）、吉内主任（同課）、福田所長（ときわプラザ）、小田原課長補佐（ときわプラザ）。

徳島県女性協議会から、会長坪内さん（農業分野の性別で分けない参画社会を目指して）、諏訪さん（徳島県女性議員を増やす会）、瀬尾さん（徳島県男女共同参画リーダー連絡会）、河野さん（ウィメンズカウンセリング徳島）、藤田さん（連合徳島女性委員会）、大寺さん（徳島県女性海外派遣交流会）、高開さん（あい女性会議徳島県本部）の計 11 名、及び目黒女性団体連絡会国内研修メンバー、奥山団長他、深山、小林、吉田、大本の計 5 人。

## 1. ときわプラザの概要

はじめに徳島県から福田所長、大西課長より歓迎のご挨拶をいただく。続いて奥山団長より、快く我々を受け入れていただいたことへのお礼と今回の訪問での学びを今後の活動に活かしていきたい旨をお伝えする。

次に小田原課長補佐よりときわプラザの概要について詳しくご説明いただく。センターは男女共同参画の総合的な推進拠点として平成 18 年から、相談業務や各種講座などを実施してきており、令和 3 年より、さらに機能強化し、名称も現在のものに改称したとのこと。また施設は広々とした駐車場も完備しており、県民誰もが利用できる施設として機能している。(施設詳細は写真で見る研修スケッチ等参照)

## 2. 事前質問への回答として

- 1) 吉内主任からは、こちらからの事前質問事項に対する回答が示された。特に徳島県の場合は県が指定管理制度をとっていることから、その実情などをお聞きしたが、利用者の満足度の向上が図られているとの回答を得た。各指定管理者は毎月のセルフチェックを実施し、県への報告をする事としているという。

特に、『女性役員及び管理的公務員』に占める女性割合が全国トップクラスであるが、その施策については？との問いに対しては、『男女共同参画立県とくしまづくり表彰』『誰もが輝くフェスティバル』、女性活躍・人材育成に向けた『とくしまフューチャーアカデミー』の公共政策や DX 人材育成をテーマにした先進的なプログラムなど、さまざまな施策を実施しており、女性（県職員）の登用促進に関する具体的な目標を掲げた「徳島県女性職員活躍推進特定事業主行動計画（第 2 期）」なども策定し効果を上げている、とのことであった。詳細は徳島県作成の交流会事前質問事項に対する回答表（後述）参照。

## 3. 徳島県女性協議会との交流会

### ★参加団体の活動と報告

- 1) DV 被害者の支援にも尽力されているウィメンズカウンセリング徳島の河野さんからは、令和 3 年に徳島県で実施された『第 24 回全国シェルターシンポジウム 2021 in 徳島』のご紹介をいただいた。徳島でのシンポジウムのテーマは「I hope ~ジェンダー平等社会の実現を~」であり、はじめてジェンダー平等をテーマとしたという。世の中には、まだまだ異性からの心理的なものも含め DV 被害に苦しむ女性が後を絶たず、固定的な役割分担意識も蔓延っており、様々な事件も起きている。

尚、いただいた上記シンポジウムの資料である報告集の飯泉徳島県知事のビデオメッセージには、「徳島は男女共同参画立県。先進県ということではなく、男女共同参画はあたりまえということで、行政における意思決定機関、県の審議会の女性委員の比率が長らく日本 1 位である。また経済界でも経済 5 団体のうち 3 つのトップが女性と、徳島県は女性の社会進出が非常に進んでいる。」と力強く述べられていたことが印象に残った。

- 2) 瀬尾さんは、3 期 6 年間、徳島県男女共同参画リーダー連絡会会長として講演会や研修会を実施し、男女共同参画の啓発活動に取り組んでこられたが、このほどこれまでの 28 年間の活動の功績が認められ、令和 5 年度『男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣賞』を受賞された。我々からもお祝い申し上げますと共に、今後も次世代に活動を繋いでいくためのお力添えに期待したい。活動的な先輩方の一步一步のご努力が今日の徳島県の女性活躍の礎となっていることを実感した。
- 3) あい徳島県本部の高開さんは、2012 年に徳島県が公表した新しい機構図に、従来あった「男女共同参画」「男女参画」を冠した部署がなくなり、保健福祉部人権推進課が担当課となることに対して、「名は体を表す」と、県に対して部署の再設置の要請に取り組んだ。36 団体 104 名の賛同を得、徳島県男女共同参画推進条例（2002 年 3 月制定）に基づく男女共同参画の施策を進める「男女共同参画課」の再設置を強く求め要請書を県に届けたという。それらの活動により 2013 年には保健福祉部男女参画・人権課として部署名が復活した。  
折しも現在目黒区も男女平等・共同参画センターが新・区民センターの建て替えに伴い、センター機能が他との共同使用に改められようとしている。県議、市町議の協力も得て、活動を推し進めた徳島県の女性たちの熱い思いと行動力が、目黒区の未来の姿にも重なる思いであった。
- 4) 徳島県女性議員を増やす会代表の諏訪さんは、行政の意思決定の場に女性議員を増やす事を目的とし、1986 年から男女共同参画社会づくりに寄与する活動を推進しておられる。1999 年には「議員になるのはどうすればいいの？」のスローガンの元、バックアップスクールを始めたとの事。2018 年には国の男女共同参画法も施行されたが、実際に政治の場に女性たちの声を届けるには地方議員を増やしていく事が大切と、市民と政治ネットワーク徳島を立ち上げ、これまで多くの議員を当選に導いている。一方、ゼロ議会、一人議会は未だに存在していると言う。2022 年には全国フェミニスト議員連盟の「オータムセミナー in 徳島」を徳島市で開催し、「ジェンダー平等社会を！」をテーマに様々な角度から議論を深めることができた。尚、これらの活動には現徳島市長との連携も欠かせない。

- 5) 徳島県女性海外派遣交流会の大寺さんは、徳島県における女性差別撤廃条約「選択議定書」の批准に向けての要請に係わる活動を推進してこられた。全国的にも徳島県は早い段階から 25 議会で要請が採択されている先進県である。尚、徳島市は最も遅い 2022 年の採択であった。
- 6) 連合徳島女性委員会の藤田さんは、このほど会の活動を引き継いだ労働運動の若手ホープである。今後も働く若い女性たちの身近な道しるべとなってほしい。

続いて、私たち目黒女性団体連絡会より主な活動内容及びそれぞれの所属団体についての簡単な説明をさせていただいた。

### 直営及び指定管理制度について

徳島県の運営する『ときわプラザ（徳島県立男女共同参画総合支援センター）』は業務委託で運営されている。一方、『徳島市男女共同参画センター』（後述）は市の直営である。運営状況は県・市とも異なるものの、どちらの場合も活動は活発に行われている。徳島市男女共同参画センターでは、松並所長、坂東さんにセンター概要についてご説明いただいた。最も魅力的に思われたのは、旬の話題を捉え現代の若い女性のニーズにもしっかりと対応している企画力。直営ならではの発信力を十分活かした上で、民間の様々なアイデアにも高いアンテナを張り、柔軟に取り入れているフレキシブルな体制。夏休みに催された『ワッフルキャンプ ホームタウン in 徳島市』（ちらし参照）もその一例であり、市の女子中高生対象の、プログラミング体験の他、SDGs やジェンダーについても学べる、いかにも旬な体験型セミナーだ。

現在目黒区では直営により『目黒区男女平等・共同参画センター』を運営しているが、新・区民センターの計画案では主な業務は委託となり、センター機能は共用となる。ケース・バイ・ケースという言葉があるが、テーマによって臨機応変の対応ができる柔軟な運営体制を備えていることが最も重要であると思われる。

2012 年に徳島県から提案された新・機構図に対する高開さんらの県に対する働きかけのお話もお聞きした。男女平等・共同参画が絵に描いた餅にならぬようにするにはどのような運営体制が最もふさわしいのか、今後も私たち目黒女性団体連絡会で話し合っていく必要があるだろう。

\*\*\*\*\*

## 女性差別撤廃条約 選択議定書意見書に関連して

女性協議会との懇談の中で

徳島県は2020年2月県議会中に全会一致で採択、県議会としては全国で4番目という早さだった。女性議員5人が全員賛成し、「自民党は私に任せてください」という自民党議員が現れ、採決に至ったという。その後各自治体で次々採択され、2022年9月現在で25自治体全部が採決した。

なぜこんなに進んでいるのか?の質問に、県が先頭切って採択したので、それにならうように広がったのではないかという。ジェンダーに対する県民の意識も高いのだろうか。都道府県ごとのジェンダーギャップ指数を見ると、徳島は行政・経済分野で2位、教育分野で4位である。以前から働いている女性の割合も高く、女性の社長や店長が多いことでも知られている。4年制大学への進学率も高いという。そういうことが影響していると思われる。

市町村別女性差別撤廃条約「選択議定書」批准に向けての要請状況一覧

2020年2月～2022年9月

No.	市町村名	議員数	内女性議員数	女性比率	請願、意見書等 打合せも勉強会など	議会 提出日	結果(採択)	備考		
	徳島県	38	3	7.90	2/10		2/12	2020/2/14	全会一致(次員1) 2020年	
1	阿南市	26	6	23.07	7/28		8/24	2020/9/18	全会一致	
2	吉野川市	20	1	5.00	8/7		8/27	2020/9/18	全会一致	
3	勝浦町	10	2	20.00	10/5		10/5	2020/11/20	陳情	
4	美馬市	18	3	16.67	10/12		10/27	2020/12/9	全会一致	
5	鳴門市	21	2	9.50	10/22	11/5	11/19	2020/12/14	全会一致	
6	三好市	20	1	5.00	10/12		11/16	2020/12/25	全会一致	
7	小松島市	17	2	11.80	10/13	11/16	12/9	11/26	2021/2/18	全会一致
8	上板町	13	2	15.38	10/20	2/15	2/17	2021/3/16	全会一致	
9	松茂町	11	2	18.18	11/2	2/12	2/22	2021/3/17	意見書は提出なし	
10	板野町	13	0	0.00	2/17		2/22	2021/3/17	陳情	
11	上勝町	8	0	0.00	10/5	2/26	2/26	2021/3/19	議員発議	
12	藍住町	16	1	6.25	2/16		2/24	2021/3/23	採択	
13	海陽町	14	3	21.43			5/18	2021/6/11	陳情	
14	北島町	13	2	15.38	2/17		2/22	2021/6/15	全会一致	
15	佐那河内村	8	1	12.50			5/17	2021/6/18	採択	
16	牟岐町	8	2	25.00		7/29	5/18	2021/6/18	陳情	
17	東みよし町	14	2	14.29			5/17	2021/6/18	陳情	
18	神山町	8	0	0.00	8/17		8/19	2021/9/2	陳情	
19	つるぎ町	12	4	33.33			5/17	2021/9/2	陳情	
20	美波町	12	0	0.00	8/20		5/12	2021/9/21	陳情	
21	石井町	14	2	14.28	10/11		10/14	2021/12/17	全会一致	
22	阿波市	20	2	10.00	8/5	10/14	10/18	2021/12/22	全会一致	
23	那賀町	14	2	14.28			11/17	2021/12/22	全会一致	
24	徳島市	30	9	30.00	7/31		9/10	2022/9/20	採択	
		398	54	13.17				25/25	県議会3名・市町村議会51名	

※北島町議会は国への意見書に「女性の人権を守るための法整備を求めること」追加した。

## 交流会事前質問事項に対する回答表

### 目黒女性団体連絡会と徳島県女性協議会の交流会 事前質問事項

質 問	回 答
<p>①ときわプラザの指定管理者制度の範囲 例えば、会議室関係、子育て支援、子ども室運営、親子室運営、相談室など、仕組みと、成果、指定管理に対する苦情などありましたら失礼ながらお聞きたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 講演会や音楽会などの利用が可能なホール、パネルの展示を行う展示ギャラリー、その他会議室の利用、管理についての業務、また託児施設の運営業務をそれぞれ指定管理としている。</li> <li>▪ 民間事業者が有するノウハウを活用することで、利用者の満足度の向上を図られており、指定管理に対する苦情といったものはないが、各指定管理者は毎月セルフチェックを行い、県へ報告することとしており、利用者からの要望に適切に対応できるようにしている。</li> </ul>
<p>②男女平等・共同参画苦情処理機関（目黒では男女平等・共同参画オンブズ）は、どの様な仕組みでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 男女参画・人権課で対応を行い、適宜審議会等から意見を伺うこととしている。</li> </ul>
<p>③徳島県女性協議会さんの立ち位置</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 数々の県内女性団体を束ねる協議会として、徳島県立男女共同参画総合支援センターにおけるフレキシブルな劇場や各種講座の開催など、女性の地位向上と女性活躍の推進に積極的な取り組みられており、本県の男女共同参画の推進に、御尽力いただいている。</li> </ul>
<p>④登録団体として特に内容を知りたいのは、徳島ママ防災士の会、徳島県男性保育者会、パパサークル、デートDV DV研究会（ヒュッゲ）etc 興味ありますので、登録団体冊子がありましたら拝見したいです。</p>	<p>(リーフレット等の配布予定団体)</p> <p>徳島県女性保護協議会、グリーンサポートエディ、NPO法人協働プランニングNIMS、徳島県男女共同参画リーダー連絡会、女性と子どもの人権を守るエンゼルランブ、デートDV・DV研究会HYGGE、CAPとくしま、とくしまチャイルドライン、(一社) 徳島県キャリアコンサルタント協会、新日本婦人の会徳島県本部、徳島ママ防災士の会SWITCH、(特非) GWE I</p>
<p>⑤「会社役員及び管理的公務員等」に占める女性割合が、全国1位。男女共同参画に係る指数が全国でトップクラス。その施策は、保守的な習慣などはないのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 男女共同参画社会の推進に顕著な功績のあった個人または団体に對する表彰制度「男女共同参画立県とくまづくりに表彰」の実施や講演会やパネル展を行う「誰もが輝くフェスティバル」を開催。</li> <li>▪ 女性活躍・次世代人材育成に向けた学びの場として「とくしまフェューチャーアカデミー」を開催。</li> <li>▪ 公共政策と女性DX人材育成をテーマとした2つのプログラムを実施。</li> <li>▪ 女性活躍推進法により定められた特定事業主として、女性(県職員)の登用促進に関する具体的な目標を掲げた「徳島県女性職員活躍推進特定事業主行動計画(第2期)」を策定。</li> <li>▪ 令和3年4月からは、徳島県立男女共同参画総合支援センターを、女性活躍と男女共同参画の加速を図る総合支援拠点として、機能強化し、相談業務の充実によるワンストップ窓口機能の強化や、理工系へ進む女性の応援セミナーなど各種セミナーの実施、男性や社会の意識改革を積極的に図っている。</li> <li>▪ アンコンジャス・パイアス（無意識の思い込み）の啓発動画を作成。</li> <li>▪ 以上様々な施策により男女共同参画の機運が県下全域に拡大するよう取り組んでいる。</li> </ul>

## 徳島県立男女共同参画総合支援センター(ときわプラザ)

奥山・吉田

### ときわプラザの業務と施設見学

ときわプラザは、県民の誰もが気軽に利用できる施設。「アスティとくしま」徳島県立産業観光交流センターの2階にあり、JR徳島駅からバスで約15分。このセンターは男女共同参画の総合的な推進拠点として平成18年11月に開館し、施設のワンフロア化に合わせてさらに機能を強化するというこゝで、令和3年4月から名称を「徳島県立男女共同参画総合支援センター」に改称した。

### ★業務

1. 男女共同参画の推進に関する相談業務
2. 講座等の開催業務
3. 調査研究業務
4. 情報収集・提供業務
5. ホール、会議室等を利用する業務(指定管理)
6. 子育て支援業務<子ども室運営>(指定管理)

### ★令和3年度から強化された新たな機能等

1. 電話相談の延長 10時～16時→10時～17時
2. すだちくんハローワーク分室新設
3. 「創業相談」「子育て相談」の実施
4. ときわプラザHPにAI・FAQの導入
5. Wi-Fi環境の整備
6. 学習室、子ども室の拡張
7. 授乳室の増設

### ★ときわプラザ相談室

夫婦、子ども、家族のこと、仕事、生活、DV、離婚、創業などの男女の

抱える様々な悩み・問題に対して専門相談員が相談を受け付ける。

- 1) 電話相談(男女対象)
- 2) 相談員による面接相談(予約制)  
女性 毎月第1、3、4木曜日 男性 毎月第1、3金曜日
- 3) 弁護士による法律相談(予約制・女性のみ)
- 4) 創業相談(予約制)(R3年度より開始)
- 5) 子育て相談(R3年度より開始)

### ★フレアキャンパス講座

男女共同参画に関する様々な課題について学び、気づき、考える講座の開催を通じ、県民が楽しく学べる機会を提供する。

令和4年度は、男女共同参画基本計画(第4次)に基づき、「フレアキャンパス講座として」、「女性活躍」「子育て支援」「DV防止」「防災・減災活動」など計画の視点に基づいた講座等を実施した。また、女性のDX(デジタルトランスフォーメーション)をテーマに加えたフューチャーアカデミーを引き続き実施した。

※徳島県男女共同参画基本計画(第4次)目標数値(参加意欲向上度)	80%以上
実績(令和4年度)	90%(達成)





## 《施設案内》

- ①ホール、講演会やミニコンサートなど多目的利用
- ②第5・第6会議室、会議や研修など利用
- ③展示ギャラリー、写真や絵画の展示
- ④すだちくんハローワーク分室新設、オンラインでの就労相談
- ⑤図書室、男女共同参画関係資料
- ⑥面接相談室、相談員による面接相談、法律相談、創業相談など
- ⑦こども室、育児中の方が講座等に参加できるように一時預かる
- ⑧学習室、主催・共催事業の講座や登録団体の研修会等
- ⑨作業室、男女共同参画団体の打ち合

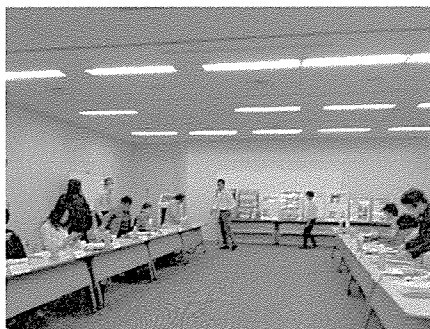
## 写真で見る研修スケッチ



ホール



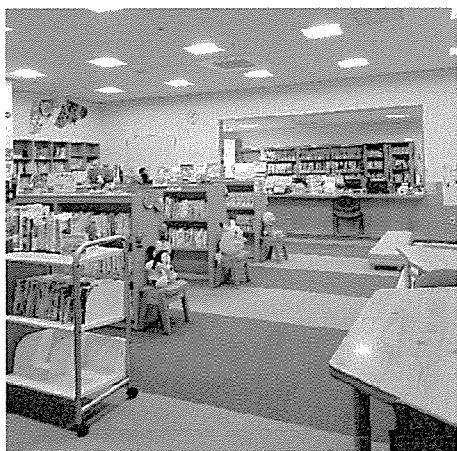
エントランス



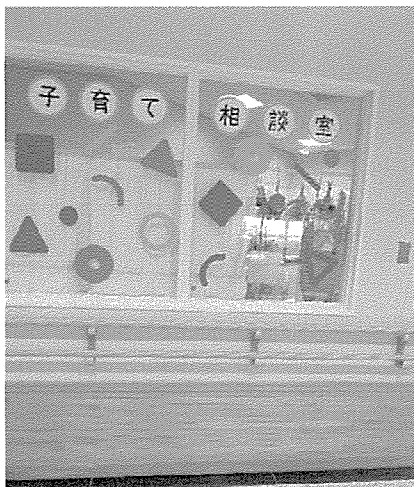
会議室



こども室



図書室



子育て相談室



学習室

## 徳島市男女共同参画センター訪問

深山 キクエ

10月26日(木) 11:00~12:00

徳島市男女共同参画センターはJR徳島駅前のアミコビルの4階にあり、交通の便がいい。正規職員は3名、会計年度任用職員が3名と少人数だが、アイデアを出し合って楽しく仕事をしている。市長からの声かけ、激励もあるという。やりがいをもって働いている様子から、直営の良さを感じた。啓発事業では民間の活力を大いに利用している。プロが作成したチラシはどれも目を引くすばらしいものだ。

松並昌世所長と坂東正子係長が説明・懇談して下さった。

以下、取組を紹介。

### ○「女(ひと)と男(ひと)生き方相談」が充実

旧称「徳島市女性センター」を2021年から「徳島市男女共同参画センター」と名称変更してから男性の相談も増えた。相談員2名がいて、奥の相談室で丁寧な相談にのっていて信頼され利用が増えている。(2022年度 男323 女558 計881)

### ○啓発事業が多彩!! プロ作成のチラシが見事!

《2023年度の啓発事業》

#### ①Waffle Camp ホームタウン In 徳島市

IT分野のジェンダーギャップの解消に向け、女子中学生を対象にITスキルの提供とIT分野のキャリア支援を行うオンライン講座を開催。NPO法人Waffleと共同で実施。

#### ②アンコンシャスバイアス授業/アンコンシャスバイアスセミナー

子どもたちにかかわる周囲の大人がアンコンシャスバイアスに気づくことが重要であることから、保護者・教員を対象とした「アンコンシャスセミナー」を実施。

無意識の思い込み(アンコンシャスバイアス)を解消し、性別にとらわれない多様な選択ができるよう、市内の小・中学生を対象に「アンコンシャスバイアス授業」を実施。

#### ③チーム育児応援セミナー

男性も主体的に家事・育児に参加し、男女ともに家事・育児を分かち合う社会を実現するため、男性の育児参画に向けたセミナーを実施。(全3回)

#### ④とくしまテックウーマン

ジェンダーギャップの解消を図るため、株式会社Surpassと連携し、市内の女性を対象に、ITのスキルを身に付けられる研修等を行い、習得した技術を生かした就労や経済的自立を支援。

#### ⑤男女共同参画に関するワークショップ

「固定的な性別役割分担意識」や「アンコンシャスバイアス」について考えるワークショップを、徳島市男女共同参画推進ネットワーク会議と連携し計画中。

## ⑥男女共同参画に関する学習会

地域における多様な人材の力を生かし、徳島市における男女共同参画をよりいっそう推進するため、市民を対象とした男女共同参画に関する学習会（講座、セミナー、講演会、ワークショップ等）を開催。

- 実施内容： 第1回：母と娘のよりよい関係づくり  
第2回：弁護士に学ぶ 不同意性交罪と嫌われない断り方  
第3回：女性のキャリアアップや復職・再就職に対する支援

## ⑦女性の観点からの防災訓練

防災対策課が実施する総合防災訓練において、屋外ブースにて、新聞紙で簡易スリッパや紙パックで笛の作成体験コーナーを設けるほか、啓発パネルを設置するなど、女性の視点からの防災対策の啓発を行う。

## ⑧ DV 防止啓発事業

11月12日から11月25日までの「女性に対する暴力をなくす運動」期間に合わせ、(1)HP・広報誌による周知 (2)パープルライトアップ (3)DV防止啓発講演会を行う。

## ○女性活躍推進動画

中小企業における女性活躍の推進や個人の自分らしい働き方につなげるため、徳島市内の女性活躍に取り組む企業の先進的な取組事例や、さまざまな分野で活躍するロールモデルの働き方を紹介する動画『自分らしく働く～誰もが活躍できる徳島市を目指して～』を制作。YouTube 徳島市公式チャンネルで公開中。

## ○生理用品提供事業

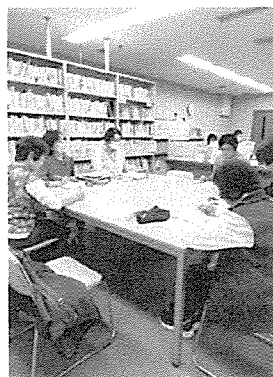
### ①生理用品無料配布システム OiTr(オイテル)

生理に関するさまざまな負担軽減やジェンダーギャップ解消推進の気運醸成を図るため、オイテル株式会社と生理用ナプキンの無料提供の実施について連携協定を結び、市庁舎等に生理用品無料配布システム OiTr(オイテル)機械を設置している。費用はゼロ。着座すると広告映像が流れる仕組み。

### ②徳島県女性つながりサポート事業

県と連携し、孤独・孤立で困難や不安を抱える女性に対し、NPOをはじめとする民間団体の持つ知見や能力を活用し、相談体制の充実や支援の強化を図ることにより、社会との絆・つながりの回復を図る。

## ○第4次男女共同参画プラン・とくしま ～誰もが輝く社会をめざして～ を策定



## 徳島市男女共同参画推進ネットワーク会議

各団体で個々に活動していた男女共同参画に関わる関係団体等による横断的組織を令和3年11月24日に設置。

目的：男女共同参画の推進、ジェンダーギャップの解消を目指して、構成団体が互いに連帯・協力し、男女共同参画社会の形成に関する取組をより実効性のあるものとし、推進する。

構成団体：大学、経済団体、地域団体など、17団体

### 徳島市男女共同参画推進ネットワーク会議取組方針

男女共同参画の推進やジェンダーギャップの解消を推進し、性別等にかかわらず、誰もが自分らしく生き、その個性や能力を十分に発揮し活躍できる徳島市を目指し、次のことに取り組みでいきます。

- 1 男女共同参画推進に向けた意識改革やジェンダーギャップの解消に向けた機運醸成に取り組みます。
- 2 誰もが自らの意欲や意識を高め、その個性や能力が十分に発揮できる活力ある社会づくりに取り組みます。
- 3 誰もが仕事と家庭の両立できる環境づくりに取り組みます。
- 4 若者や女性が生き生きと暮らし、あらゆる分野に参加できるまちづくりに取り組みます。
- 5 徳島市から男女共同参画やジェンダーギャップ解消を発信し、阿波女が活躍するまち(徳島モデル)づくりに取り組みます。

### 《参考》

#### ① ロールモデルカフェ(令和4年度)

さまざまな分野で活躍する徳島ロールモデル(市長ほか)との交流や意見交換を行う事で、固定的役割分担意識に捉われず、人生設計を考えるうえでのヒントを得て自信を深め自分が希望する自分らしい生き方を選択してもらえよう行動へつなげる。

また、徳島で頑張っている女性を紹介することで、徳島で働く魅力を感じてもらい、県外への若年層の流出防止につなげる。

参加者：38人 (大学生18人 ロールモデル20人)

#### ② とくしまダイバーシティフォーラム(令和4年度)

誰もが自分らしく生き生きと働き、それぞれの能力を生かし活躍できるようダイバーシティ経営をテーマとするフォーラムを開催。本市において先進的に女性活躍推進に取り組む企業の取組事例の紹介やパネルディスカッション、参加者同士の意見交換を実施。

参加者：80人 (会場50人 オンライン30人)



## 徳島市の女子中高生あつまれ!

### 新しい体験ができる1日☆

初心者大歓迎ウエブサイト講座!  
SDGsやジェンダーが学べて  
大学生の先輩と進路の相談もできて  
初めてのプログラミングも体験できちゃう  
すてきな1日だよ!

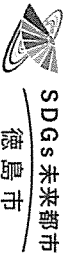
# ワッフルキャンプ Waffle Campin-ウタウイン 徳島市

日程  
8月7日(月) 11:00-17:00

対象  
徳島市内に在住・在学する女子中高生\*

\*自認が女性、ノンバイナリーの方  
開催場所  
オンライン及び 徳島市産業支援交流センター\*  
\*徳島市元町1丁目24番地アミコビル9F  
(申し込みフォームより参加形式の選択可能です。  
詳細は申し込みフォームよりご確認ください。)

共催：NPO法人 Waffle・徳島市



# いま話題のテーマ / アンコンシヤス バイアスセミナー

子どもたちの可能性を広げよう!



## 気づこう 誰もが持つ 「無意識の思い込み」

私たちは、何かを見たり、聞いたりしたときに、実際にどうかは別として「無意識にこうだと思いつく」ことがあります。これをアンコンシヤスバイアスといいます。これは、誰にでもあるもので、日常の様々な場面に存在します。アンコンシヤスバイアスに気づかずにいると、相手の心を傷つけてしまったり、個人の自分らしい生き方を狭めるなど、その影響は多岐にわたります。「私にはどんなアンコンシヤスバイアスがあるのだからか?」ということに思いをめぐらせ、アンコンシヤスバイアスが子どもたちにどのような影響を及ぼすのかについても考え、子どもたちの可能性を更に広げることができるといってみませんか。

## 講師 守屋 智敬 さん

2018年一般社団法人アンコンシヤスバイアス研究所設立。一人ひとりが「キーンとする社会を築く」企業・個人・小・中学校等でアンコンシヤスバイアスを広めている。受講者は約万人に上る。2022年、がん社会に働くを促進することを目的とした共同研究結果「がん社会に働くを促進する」を公表。書籍「アンコンシヤスバイアス」(電子版)、「嫌なクオ」(KADOKAWA) などがある。(https://www.uinonconshiaslab.org/)



8月17日(木) / 8月18日(金)  
19:00~20:30 / 13:30~15:00  
Zoom 開催  
参加無料  
※各回の内容は同じです

対象 徳島市内に在住・在学の小中学生の「保護者」及び「教員」  
定員 各回100人(先着)  
申込方法 本市ホームページまたは下のQRコードからお申込みください。  
申込締切 8月9日(水)

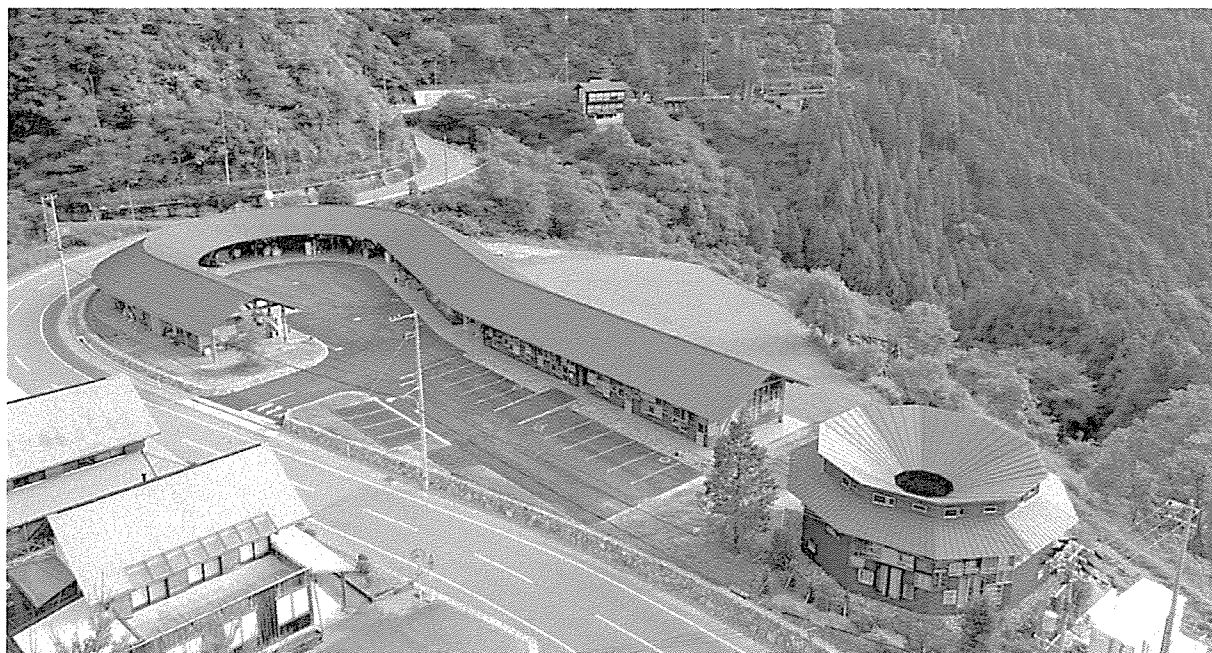
【お問い合わせ】徳島市男女共同参画センター  
TEL 624-2611 FAX 624-2612  
mail:denjo\_center@city-tokushima.tokushima.jp





## 徳島県上勝町 ゼロウェイストセンター

小林 美和子



上勝町は徳島県の東に位置します。

町の8割以上が森林、人口は約1500人、高齢者が5割以上の四国で一番小さな町です。何度か映像にも取り上げられた“葉っぱビジネス”でも有名な所です。

10月25日、私たち5名は徳島市内のときわプラザからバスで約1時間余りの、ゼロウェイストセンターに着きました。

広いロビーには、所狭しと、住民から持ち込まれた衣類・食器類・骨董品・本・CD・カセットテープ・おもちゃなど、しっかりと仕分けられ整然と並べられています。

お気に入りの品があれば、誰でも無料で持ち帰ることが出来ます。その場合は、控え帳に物品を記入してから、目方を計り、1日にどれだけの物が減ったのか計量し、換算をして、一日・一か月の統計を取っているとのこと。

チェックインの後、16:30から30分程度のスタディーツアーに参加しました。ゼロウェイストセンターは、2020年3月の竣工、4月20日にオープンしました。町の杉材を使い、ゴミを出さないために加工を少なくし、丸太の状態を組み込まれています。

金具をボルトで締め付けて、工事およびメンテナンスがし易いように考えられています。窓や建具、更には什器なども住民の協力を頂き、再活用されています。

◎ 基本概念として、“無駄をなくそう” 浪費や廃棄物をゼロにして、ゴミを出さない社会を目指す。ものを作る段階で、ゴミが出ない仕組みを作る。皆さんの意識改革で、生産・流通のシステムを変えて行かなければならない。

上勝町にはゴミ収集車がありません、町民がこのセンターへ持ち込みます。センターにて13種類に分別。資源を10種類に、ゴミは3種類に分け、最終的には

「45種」に細かく仕分けられます。

大型の家具類やオーディオセットなども無料で引き取り、そのままの状態、使いたい方に無料で持ち帰ってもらっています。

センターの窓口には、コンシェルジュ（仕分け案内人）が居ます。

このセンターの取り組みに、各地からの団体や、アメリカを始め各国からも見学に来られているそうです。

ホテルにチェックインの際、地元で作られたコーヒー粉（ドリップ用）・お茶（ハーブティー？）をひとりずつ聞いて配給をします。手洗い用の石鹸は、各自が自分の使う分だけを切り分けて部屋に持って行きます。メゾネットタイプの部屋で、窓・ガラス戸も大きく、カーテンは布地を配色良く継ぎ足して天井ぎりぎりから吊るしてあり、タペストリーのような趣がありました。

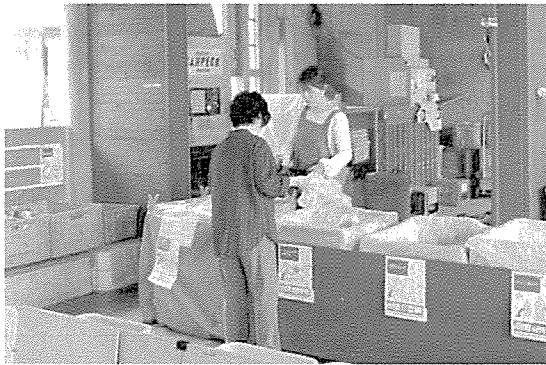
室内は、居心地の良い木の温かみ・かおりが感じられ、一泊だけではもったいないと云う気がしました。

朝食の際に出た、生ゴミ・紙類・プラスチックなどをきちんと分別して、チェックアウトする前に所定の箱に入れます。コーヒーお茶がら・果物の皮などは、区画ごとに区切ったその日の土床に戻してかき混ぜ、水をかけて分解を促します。

素晴らしい体験をしました。

小さな町だからこそ団結力も高まり取り組めるシステムかな～と云う思いもします。

私たちの町も、何年かかるかと想像しながら一步一步近づければと願っています。



## 上勝町ゼロ・ウェイストの歴史 くるくる Vol11 より

奥山 利子

### 日比ヶ谷の野焼き時代

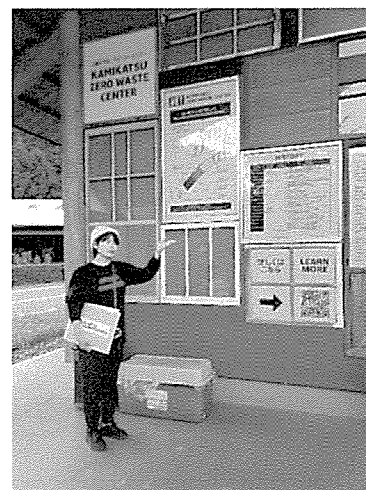
昭和40年代後半の上勝町は、温泉施設ができたり、正木ダムの工事が始まったりと建設ラッシュの時代。総面積の85%が山林である上勝町は林業や製材業が盛んで、ここから発生するおがくずや製材くずも、山を削った残土も埋める場所として日比ヶ谷で処理された。それを見た一部の住民も家庭での大型ごみなどを持ち込むようになり、自然発火などでごみが燃えだし、ついには野焼きの現場となっていた。

住民が持ち込んだとはいえ、やがて町の管理となるが、24時間持ち込みができる状態だったから町外からの持ち込みもあったという。「汚物除去法」(明治33年)や「清掃法」(昭和29年)が定められた時代は、廃棄物≒汚物であり、これを衛生的に処理するために、焼却が推奨されていた。昭和40年代以降にはプラスチック製品の河川への投棄の問題が深刻化。昭和45年に制定された「廃棄法」により、さまざまな環境問題が表面化し、県からの指導や埋め立て地の残要量不足などで、平成5年より「リサイクルタウン計画」の策定に着手することになる。

### 過渡期となった小型焼却炉時代

1997年の容器包装リサイクル法施行に伴い、缶・ビンなどの9分別を開始した。野焼き場を閉鎖するにあたり、焼却か埋設か、2つの選択肢があったが、埋設の場合、土壤汚染を防ぐシートが必要で費用がかさむため却下。そこで町に合った高分子系小型焼却炉を2基導入。あわせて22分別もスタートした。

2000年12月「ダイオキシン類対策特別措置法」が公布され、使っている焼却炉が排ガス基準を満たさなかったことから、焼却炉閉鎖に伴い、さらにごみを減らさなければならない。年末年始のわずか1ヶ月の間に担当職員が55の集落を回って協力を呼びかけ、2001年1月から35分別がスタートした。必要に迫られた結果ながらも、こうして上勝町はごみ削減へ舵を切り始めた。



### ゼロ・ウェイストアカデミーの軌跡

2003年、国際環境NGO グリーンピース・ジャパンより招いたアメリカの大学教授

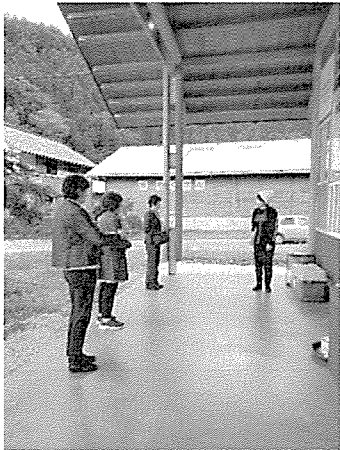


ポール・コネット氏、「ゴミの発生源から変える」の講演会から2か月後には、町議会で「ゼロ・ウェイスト宣言」を提案すると満場一致で承認された。宣言後、世界中の情報を収集し、国内外に仲間を増やし、知見を広めていく母体をつくろうと立ち上げたのが、NPO 法人ゼロ・ウェイストアカデミー。

焼却炉をやめ、分別数を増やす。その実現のため、代わりに焼却や資源回収をしてくれる企業の選定や町民の協力を仰ぐための対応に粉骨砕身したのが町役場職員の女性。上勝町がゼロ・ウェイストタウンへ向かう礎を築いた人物だが、彼女は「地域の持続可能性」、すなわち「生き残れる町にすること」を目指していた。特に重視していたのが「教育をはじめ文化的な環境があること」、「世界中から人が集まる場所にすること」。そんな思いから「ゼロ・ウェイストアカデミー（以後 ZWA）」発足に至った。

ゼロ・ウェイストの取り組みは行政の力だけで進んだわけではない。「住民同士が助け合う」「自分たちの問題は自分たちで解決する」そうした住民たちの意識があつてこそ実現してきた。ごみ運搬支援ボランティアの「利再来上勝」（りさいくる上勝）、環境パトロール隊の「GO 美レンジャー」（ごみレンジャー）を立ち上げた。

ZWA 初代事務局長は、環境政策先進国のデンマークに留学していた女性。上勝町の職員公募に応募し、帰国後上勝町へ移住。その後、団体が走り出すための基礎作りをし、初代事務局長に就任した。分別以外にも体験できる形を作りたかった彼女は、町内外での講演活動を大事にしていた。ある時小学校で、「もっとできるかもしれないこと」



について話したところ、講演後も子どもたちが自分のできることを考え続けてくれ、その結果「捨てるのではなく譲り合えるリユースの場」を立ち上げてくれた。それが現在にも続く「くるくるショップ」の原型。（2016年はリユース率98%）

2代目事務局長は、防衛大学を卒業後、徳島県藍住町出身で、吉野川が恋しくなり地元に戻って間もない時に後任募集を知り応募。自分のできる役割として、「雇用で仲間を増やす」、「自然資源とゼロ・ウェイストで来町者も増やす」、「廃棄物の減少に向き合う」そして次へバトンタッチ。

## 上勝から世界へ 世界から上勝へ

関西の大学で出会った環境問題への想いを共有する二人の女性。上勝町出身の彼女は、地元に戻りカフェを経営、上勝の特産品をオンラインで販売するなどしていた。その時、次の ZWA 事務局長を打診されるが、出産を控え不安な状況だったので、もうひとりの友人の坂野さんに相談したところ、一緒に行くと言ってくれた。坂野さんは、その後第4代理事長に就任して今に至る。坂野さんは、海外で NPO 活動や企業勤務経験があるので、

他の地域やコミュニティにも広げられるように上勝の取り組みを、構造分解し、応用可能なモデルを作りたいと思っていた。2015年の春の事だった。

翌年から13種類45分別へ変更。二人は、3Rなどのゴミ政策の理論モデルを用いながら、やるべき課題の洗い出し。見えてきたのが、ごみの「発生抑制」。もう一つは、ステータスを高めるための発信。海外メディアの取材を積極的に受け入れ、結果、海外からの視察者が増えた。もう一つは、経済界に向けた発信。経済界においても、今、気候変動を始めとした環境問題は、避けられない重要な課題になっている。「上勝のように小規模で成功モデルをつくって提言していくことが今後の役割だと感じている」と坂野さん。

以上

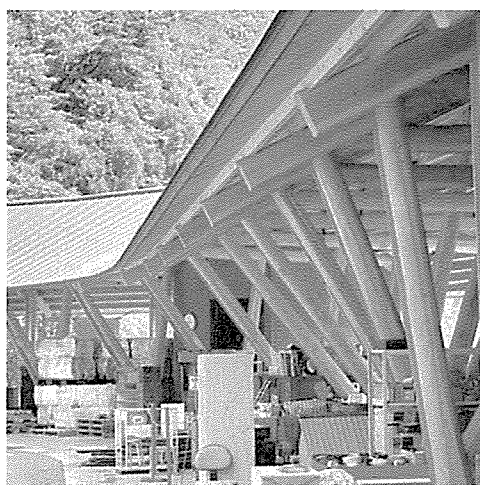
### 最後に感想として・・・

現在は、ZWAの活動として、楽しく学んで実践したくなる「ごみゼロゲーム」

という学習があるとのこと。楽しみながら“ごみ”の削減を学んで実践してもらおう。ゲーミフィケーションを利用して開発。一般に小学4年生くらいになると、3Rの言葉を習い、クリーンセンターや焼却場を見学するが、テーマはリサイクルにとどまって、“ごみ”を出さない方法を考える機会にはなっていない。

「ごみゼロゲーム」は、日々自分たちが物を使う時や、買い物をするときに、どう考えれば「ゼロ・ウェイスト」につながるのか学べて、実践できるようになってもらうためにデザインしている。修理して使う、リユースする、さらに「そのものを使わない選択はないのか」を提案するとポイントが高くなる設計。そして、「助けよう！」というマインドになるらしい。

今後、地域学習として広げていきたいとのことですが、私も是非挑戦してみたいので、おとなバージョンを開発してほしいです。



こうして「上勝町ゼロ・ウェイスト」の歴史を紐解いていくと、成功の陰にはたくさんの若い女性が関わっていたんだと知りました。今や、世界とも繋がって、若い人たちが良いアイデアを出し合い、働き甲斐のある、スペースを仲間と作り出す。出産を控えていても仕事を選べる。仲間がいる。そんな環境をつくることは、自然界の環境整備とも重なって見えた。私たち女性の周りの男性とのギャップ。環境を整えることも、どこか似ていないか。住みやすい環境、子育てしやすい環境、だれでも状況に応じて働ける環

境、そんなことを「ゼロ・ウェイスト」にご苦労された皆さんの、特に若い女性たちに教えてもらった気がした。この体験学習、研修からこじつけになるかも知れないが、環境を整える事、それは、13種類45分別を習慣として継続する事。上勝町はコンパクトだったから成功した、だけではないと思う。私たちの問題にしているジェンダーギャップ指数を縮めることも、環境を整え、習慣として継続する。それはありではないか。原因はいくつかあるはず、洗い出し、表に出して分類し、環境を整える準備をし、それを習慣とする。

くるくるショップ。無料リユース推進拠点。くるくる工房。リメイク専門店、そこにはリメイクの達人が集まり、オーダーメイドが人気を博しているそうだ。リメイクにより、ごみ削減に貢献しているのは勿論の事、高齢者の活動拠点となっている。ごみステーションセンターからは循環型社会の正しい姿を見た気がする。女性たちが、3Rに力を入れた成果が表れていた。

以上



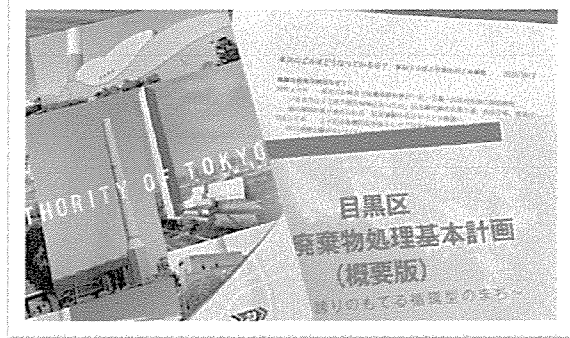
KAMIKATSU ZERO WASTE CENTER

2020.3 竣工

## 『東京のゴミ処理はどうなってるの?』～東京のゴミ問題から環境を考えよう～

新・目黒清掃工場は6年の建て替え工事を経て、2023年3月に最新技術を導入し完成した。一方、工場建設にあたっては、40年に及ぶ地元住民と行政との話し合いがあったという。

上勝町ゼロ・ウェイストセンター訪問に先立ち、『東京のゴミ処理はどうなってるの?』のテーマで地元目黒区を初めとする東京都のごみ処理状況について



2023年10月4日に目黒女性団体連絡会主催の事前学習を行った。講師は長年、地元の清掃工場建設問題に係わってきた木下靖枝さん。木下さんは、家事の多くを担う女性にとって、環境問題にはジェンダー視点が欠かせないと言う。以下、今回の学習内容と東京のごみ問題に対する懸念をまとめた。

### 東京のごみ処理状況：

昭和46年までは、東京の周辺地域にのみ清掃工場があった。その後、美濃部都知事時代の一区一工場・区内処理の原則提唱により、山手線沿線の目黒区、渋谷区、豊島区においても清掃工場の建設計画が進められた。平成10年からは、東京23区は基礎的自治体としてごみ処理事業を東京都から移管された。しかし、全区に清掃工場がないことから「東京二十三区清掃一部事務組合（清掃一組）」の名の元に、ごみも共同処理することとなった。

### ごみ処理時の懸念：

- ・ごみの焼却処理・共同処理にあたっては、水銀、ダイオキシン、アスベスト等の有害物質の放出や焼却時の薬品使用による環境負荷等が懸念される。
- ・共同処理では生産者責任が問えず、ごみ減量につながらない。
- ・約260度の高温排ガスの温室効果への懸念。
- ・清掃工場の巨額な建設・整備・運営費の問題。
- ・「清掃一組」責任者は各区議会議長の持ち回りのため、清掃事業の専門家ではない、他。

今後も環境に配慮するために、3R運動などにより、更なるごみの減量を進めていく事は必須。ごみ処理及び再資源化の先進自治体である徳島県の上勝町（ゼロ・ウェイストの基礎的自治体）や神山町（燃えるごみ月2回収、紙オムツリサイクル他）に、再資源化のプロセスや環境アセスメントに対する対応、そのヒントなどを学びたい。（大本）

\*\*\*\*\*

## 「一歩踏み出す勇気を！」

大本 郁子

徳島市の内藤市長は、『SDGs 未来都市』の視点から様々な行政を主導されている。男女共同参画もそのひとつ。市長室の前に掲げられていた、ひととき存在感のある SDGs のモニュメントに現市長の意気込みを感じた。今後も若い女性たちのロールモデルとしてのご活躍を祈るとともに、東京からもエールを贈りたい。

また、「ときわプラザ」では、徳島県女性協議会の皆さま、お一人お一人からこれまでのエピソードをお聞きし、徳島女性の男女共同参画への強い想いに共感。日頃から「一歩踏み出す勇気を！」と若い人たちに伝えている我々こそもっと動かなければならないと自省する研修となった。

## 『人生、いろどり』（葉っぱビジネスについて）

上勝町（かみかつちょう）の月の宿の売店の壁に『人生、いろどり』と題された大判の



映画ポスターがあった。まさに、上勝町の『葉っぱビジネス』を象徴する映画だ。地元の資源である山椒、南天、わさび、もみじなど山の恵みである葉っぱたちが、和食等のいろどりとして添えられるくつまもの>に変身し、ビジネスとしても成り立っていく、という街おこしのサクセスストーリー。地元の人によれば、住民と市場のニーズを、スマートフォンやタブレットなどの IT 機器が密に繋いでいるという。美しい山々の自然が時空を超えて都市の消費者のニーズを満たす。勝浦川の水の恵みを得て、四季を映し出す深い山あいや段々畑、そのエッセ

ンスをそっと我々のテーブルに届けてくれる『葉っぱビジネス』のあり方が心地よい。何よりもくいくつになっても>世の中の活動の一部となり、目標をもって社会参加をする女性たちの笑顔は明るい！

徳島県の鳥は純白のしらさぎ、アマゴの養殖も盛ん、神田茶（じでんちゃ）も深い味わい。美しく潔い色合いの阿波藍。今回の研修では、阿波踊りの華やかさを多面的に支える徳島県と徳島女性の方々の力強いまなざしに出逢うことができました。関係者の皆さまに感謝申し上げます。



\*\*\*\*\*

## 《 国内研修 “ 徳島 ” に参加して 》

2023 年 11 月  
小林 美和子

❖10 月 25 日

羽田から 1 時間余り、徳島空港に到着。 15 分程で徳島市役所へ。  
徳島市共同参画センター所長・松並さんのご案内で、11 時に本庁舎 8 階市長応接室に入り、市長の内藤佐和子さんと面談。30 分程でしたが、東京に居られたころ目黒区平町にお住まいだったと聞きビックリ！私はこの春まで 38 年程目黒区大岡山に住んでいましたので、何か強いご縁を感じてしまいました。  
女性市長としてご苦労なされたこと、小学生のお子さんを育てながら徳島市の活性化に心血を注いでおられる姿を拝見して、これからも先ずは徳島市のために前進をしていただきたいと思いました。

市長のお席の後ろに立派な藍染のタペストリーが掛けてあり、入り口側の壁面の棚には阿波人形が飾られてあり、とても素敵な演出が施されていました。  
徳島は全国一の藍の生産地と聞いています。藍染め・阿波人形浄瑠璃・お遍路さんのご接待等々、伝統文化がしっかりと受け継がれていることを認識しました。

あわただしく昼食をとった後、13 時からのスケジュールに合わせて次の男女共同参画総合支援センター（ときわプラザ）に着きました。押し並べて、地方の公共施設はスペースが広く、建物も斬新でした。15 分程施設の中を、所長の福田さんらのご案内をしていただきました。

回廊式になっており、使いやすい部屋割りと利用者への配慮が至る所に垣間見え、設計した人は？... と、つい考えてしまいました。

その後、女性協議会・女性団体連絡会の方々と各自団体の紹介及び活動発表をして質疑応答、15 時に閉会。盛りだくさんで、あらあらという間に時間が過ぎましたが、とにかく女性が元気で行動力がある、と云うことを実感しました。

バスで約 1 時間余り、いよいよ本日の宿ゼロウェイストセンターへ。  
夕食は付きませんので禁に降り、月の谷温泉の食事処で夕食会。 その際、女性協議会から会長の坪内さん、(前) 会長の大寺さんをご参加くださいました。  
山の中なので、ボランティアタクシーを予約していましたが、お二人ともご自身のお車でお越しになり、行きも帰りも同乗させて頂きました。感謝！感謝!!

夕食会で洲本市にお住まいだという大寺さんに、藍染めについてお尋ねしましたら、同市でも藍染の職人さんが多くおられるとのことでした。 お話も弾み、和やかな食事会となり、疲れが何処かへ飛んで行ってしまいました。

❖10月26日

ゼロウェイストセンターを9時半ころ出発、バスで徳島市内へ。

予定していた徳島市男女共同参画センターに到着。雑居ビルの中に入っている施設で迷いましたが、所長の松並さんに出迎えて頂き、これまた感謝です。

左右の壁沿いに本や資料が整理整頓され、内部はこじんまりとまとめられ、スッキリしていました。

松並所長・坂東（課長…？）さんとも女性、男性がお一人居られましたが、他のスタッフは皆女性。女性が活躍している職場を実感しました。

事前質問等の説明をして頂いたあと、一番関心のあった相談室を見せていただきました。奥に、隣り合って2室あり、何れも大きな窓があり明るく、テーブルと椅子が並べられていました。傍には育児室もあり、ここなら安心して相談を受けられる環境だな～と思いました。

12時においとま、13時半・JR徳島駅前、リムジンバスで空港へ。

徳島空港発 15:30、羽田着 17:00 過ぎ、メンバー全員で打ち合わせをして、... やつと家に着きました。

ハードなスケジュールでしたが、お逢いした皆さまはボランティア精神にあふれ温かく、私の気持ちもほぐしてくださいました。ありがとうございました。



「女（ひと）と男（ひと）生き方相談」 相談室

## 真っ青な空と穏やかな海に迎えられて・・・

2023年度 国内研修徳島に参加して

奥山 利子

四国の東部に位置し、紀伊水道に面した徳島県は、高知に水源地を持つ吉野川が東西に流れ、西側では大歩危（おおぼけ）・小歩危（こぼけ）の深い渓谷を形成し、東側では徳島平野に注ぎ込む。山地が総面積全体の8割を占め、剣山など標高1000mを超える山々がそびえる。県内の区分としては、美馬市より西側の西部と鳴門市や徳島市などの市街地がある東部、室戸阿南海岸国定公園を形成する南部に分類できる。

江戸期から近代にかけて、木綿の普及とともに染料である藍の生産が盛んとなった。また香川県とともに、和三盆糖の生産も行われ、製塩業やたばこ産業も盛んであった。近代に入ると木工業や医薬品製造業が栄え、近年ではLED生産やコンピュータソフトウェア開発なども行われている。  
「産業遺産百科より」

私は、今回の研修先に徳島県を選びましたが、企画の段階で、今の徳島県について殆ど知らないことに気づき、まずは、図書館へ行って、「産業遺産百科」という本を開きました。それからは、地図上では小さな徳島県が、いつの間にか興味が膨らんで今こうして感想文を書いている。今日まで1日たりとも忘れることなく私の体のどこかに存在することになった徳島。指折り数えてみるとなんと半年もの間。そんな、久しぶりの緊張感ある毎日でしたが、今となっては、徳島でお世話になった皆さん、このような機会をくださった目黒女性団体、他の皆さん、感謝申し上げます。貴重な経験は、今後の力となって、今まで以上に社会貢献に励みたいと思います。

さて、そもそも、どうして徳島を選んだかという、時あるごとに発言していますが、2016年10月28日、日本女性会議秋田での事、内閣府局長基調講演で武川局長が、男女共同参画の現状や、課題について話されたが、顔色悪く、残念そうに『女性活躍に向けた様々な施策を行っている中、ショッキングな結果です』と話された。その要因は男女格差報告で昨年101位から順位を10下げて111位となったと。それではパフォーマンスも上がらないだろう、1700人ほどの会場で気の毒にさえ思った。あれからずっと気にかけていた。ところが、今年は125位。当時、武川局長は「クオータ制やポジティブアクションに取り組む諸外国との差が広がっている」と認識していたはずなのに、どうしてここまで落ちるのか。きっと後ろで足を引っ張っている人がいるのでは？と思うようになった。そんな理由から、「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数」の行政と経済で上位の徳島に行こうと思った。また、「ゼロ・ウェイスト宣言」をしている上勝町にも何かヒントがあるのではと思い、「県、市、町」を一度に研修することになった。結果は、「上勝町ゼロ・ウェイストの歴史」のページの感想に書きました。

今度は、ゆったりとしたスケジュールで、再度徳島へ行きたいと思っている。



## 国内研修に参加して（感想）

深山 キクエ

初めての参加でしたが、ぎっしり詰まったスケジュールの中で充実した体験や学びをさせていただき、ありがとうございました。

訪れた4カ所それぞれによかったのですが、一番印象に残っているのは、徳島市男女共同参画センターでのお話です。たった3人の正規職員なのに、多岐にわたる多彩な啓発事業のすばらしさに目をみはりました。ジェンダー視点をしっかり持ち、小中学生に、若い世代に、保護者・教員に、母親・父親に、女性に、男性に、、、と幅広い対象に向けたさまざまな取り組みをされていて、どこからこんなにアイデアがわいてくるのかと感心しました。例えば、

- ・保護者・教員を対象にアンコンシャスバイアスセミナー、小・中学生を対象に学校でアンコンシャスバイアス授業、講師は一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所に依頼。
- ・男性も主体的に家事・育児に参画し男女ともに分かち合う社会をめざして、以前「男性育休講座」としてやっていたが参加は少なかった。それを「チーム育児応援セミナー」と工夫したら、家族で参加になり、かなり増えた。 等々

費用の面では、連携協定して民間の力も活用。例えば、

- ・「とくしまテックウーマン」では、株式会社 Surpass と連携し、女性の就業率や収入の向上に向けて、育成から実働までワンストップで支援。費用負担はゼロ。
- ・生理用品無料配布システム OiTr（オイテル）の設置も、オイテル株式会社との連携で、費用はゼロ。トイレに着座するとセンサーが感知し広告映像（無音）が流れるシステム。
- ・さまざまな事業を知らせるチラシがすばらしかったのも、プロのデザインによるとのこと。民間の力を大いに利用し、成功していると感じました。

また、これらの企画・運営は当センターが市の直営だからこそできているのではないかと思います。

職員の方の話では、市長の人脈のおかげもあるということでした。若々しくさわやかな内藤市長にお会いして、女性市長としてジェンダー視点での取り組みを進めていることを伺ったことも貴重な体験となり、「市長が変われば市政も変わる」のを実感しました。

徳島県男女共同参画総合支援センター（ときわプラザ）は、広い空間にさまざまな施設が共存している施設。これなら県民の目につく存在になれるとうらやましく思いました。

徳島県女性協議会のみなさんとの交流会も、目黒区よりも広い範囲の県で活躍なさっている7団体の方々のお話が伺えて、規模が違うなど感心しました。協議会会長は立候補で決まるとのこと、やる気が充実していると感じました。その坪内会長さん・大寺さんとの夕食交流会も、話題が尽きることなく楽しい時間でした。

上勝町ゼロウエストセンターでの宿泊体験。テレビのない静かな時間を久しぶりに過ごしました。建物の形が「？」の形だったり、壁や窓がリユースの物だったり、13種45のゴミ分別など、すごい努力のたまものと感じました。町のみなさんが心を合わせて取り組んでいるからこそできているのですね。私たちも日常を見直し、ゴミの削減・環境保全に努力していかねばと改めて考えました。

国内研修2日間を通して多くの方のおかげで貴重な体験ができたことを感謝いたします。

母と娘の関係を見直すヒント

# 母娘と娘になりたい！ 楽しんでほしい関係



※全ての母と娘の関係に当てはまるわけではありません

## 「どうして母と娘はこじれるの？」

「母と合わない」「母が重い・イライラする」など、母親との関係に悩む娘は多くいます。娘が母親との関係で傷ついたり、辛い気持ちになってしまいう原因は……？ どうすれば楽になれる？そのヒントを見てください。

徳島市

# 親子育児支援センター

- 第1回 9.10 (9/10) 10:00~11:30(90分)  
●男性育児講座 佐野崇之さん  
●抱っこひも講座 中川智子さん/藤村圭穂さん  
【会場】ふれあい健康館 2階 和室 【定員】12組
- 第2回 9.24 (9/24) 10:00~11:30(90分)  
●男性育児講座 佐野崇之さん  
●ベビーマッサージ講座 布川正秀子さん  
【会場】ふれあい健康館 2階 和室 【定員】12組
- 第3回 10.29 (10/29) 10:00~11:30(90分)  
●男性育児講座 佐野崇之さん  
●言葉がけ&しつけ講座 中西紗希さん  
【会場】ふれあい健康館 2階 第4会議室 【定員】15組

参加無料

※詳しい講座内容及び開期については、要問合せ。※お一人での参加も可能です。



家族ですれば  
きこももこ  
子育ては楽しくな

対象 徳島市内在住、在勤、在学で関心のある方ならどなたでも  
申込方法 右記 QR コードより電子申請でお申込みください  
申込締切 各開催日の1週間前

※申込み多数の場合は抽選となります。結果はお申込時にご入力いただいたメールアドレスへご連絡いたします。  
※お申込み後キャンセルされる場合は、必ずご連絡をお願いします。  
申込フォーム



主催：徳島市男女共同参画センター  
お問合せ：〒770-0834 徳島市元町1丁目24番2号 コピビル 4階  
Tel.088-6242611 (火・日・祝休館) Mail: danjo\_center@city-tokushima.l-tokushima.jp

徳島市 徳島又は大分  
ふれあい健康館  
ふれあい健康館  
山本公雄

## 令和5年目黒女性団体連絡会国内研修参加感想

吉田啓子

ジェンダー平等の会として参加した。この研修会は参加者がどんな研修にするか討論する中で、特別学習会『東京のゴミ処理はどうなっているの』木下靖枝氏を開いた。今回研修場所の一つに上勝町ゼロ・ウェイストセンターでの体験研修と同時にジェンダー視点から見たゴミと環境問題として問題意識をもって参加することができた。そのことは研修の中で男女共同参画のフィルターを通してこの徳島研修を見ると、経済、行政、環境、教育の各分野での男女平等共同参画事業活動の新しい窓を開けてくれた思いがした。そして、ジェンダー平等の会員としての一步を踏み出したように思う。以下4つの研修場所の感想を列挙する。

### <徳島市内藤市長表敬訪>

徳島県初の女性市長であり、日本で最年少の女性市長。忙しい公務の中交流の場を設けて下さり私たちの率直な質問にも忌憚なく答えてくれた。市長になろうと決めた原動力は、高校時代にショッピングセンターが郊外にでき徳島市内から映画館もなくなり高齢者も若者も駅周辺からいなくなった。中心市街地が空洞化した。このままでは徳島がダメになる何とかしなければと言う思いからだと言う。市長のコミュニケーション力高さや行動力が市長のお話の端々から伺えた。例えば、目黒区でのモノづくりの記事を目するとすぐに連絡を取り、話を聞く。人間関係作りとものづくりを行政に反映させ民間の力を借り（WIN・WIN の関係をその施策に対しての賛否があるかもしれないが）活性化させていると思われた。

### <徳島県立男女共同参画総合支援センター施設見学と徳島県女性協議会交流会>

私たちの研修のために準備して下さった職員各位感謝する。別紙にありますますが、私たちの質問にも丁寧に答えていただいた。徳島県女性協議会の各団体からの歴史や活動の報告で学ぶことは多くある。中でも、女性差別撤廃条約「選択議定書」批准に向けての取り組みの中で、党派を超えて議員にねばり強く働きかけたことが採択につながった点は、目黒女性団体連絡会としても励みになった。

### <上勝町ゼロ・ウェイストセンターホテル宿泊と体験研修>

四国一小さな町で SDGS の視点をはっきりさせた上勝町のゼロ・ウェイストの取り組みは素晴らしい。

問題は、ゼロ・ウェイストの運動は上勝町だからできたのか。（体験学習したことを周りの人に話すと、前記のような返事が返ってきた。）これを自分たちの地域のこととしてとらえる事。そして、どんな形で実現していくか現実を突きつけられた気がする。ホテルに宿泊で説明を聴き体験して見えてきたことは、ゴミの元を出さないというか考え方が徹底していると思えた。例えば、ホテルの朝食は使い捨ての食器スプーン等は無く、ジャムなど個包装は無く、コーヒーもお茶も食器仕立てで茶殻だけがゴミとなる。ホテルの建物もカーテン等も廃物利用の数えきれない工夫がありオシャレ感もあった。13種45分別を守っている住民の声を直接には聞けなかった。町としてゴミの種類によってはポイントを付与や、生ゴミ処理機の一部補助などもあり住人への啓蒙・教育もしっかりしていると思った。

### <徳島市男女共同参画センター施設見学と懇談>

施設は徳島駅の商業施設のアミコビル4階にあり。ショッピングのついでに相談によってみる気軽さがある。職員は所長含め3人ほかに専門職3人だが生き生きとした姿勢が見られた。徳島市男女共同参画センターの取り組みで1. 相談業務の中で相談実績が令和4年では881件と多さにびっくりする。買い物ついでも含め相談しやすい環境づくりを配慮した取り組みかと思う。ここでも市長の姿勢が反映されているように感じた。

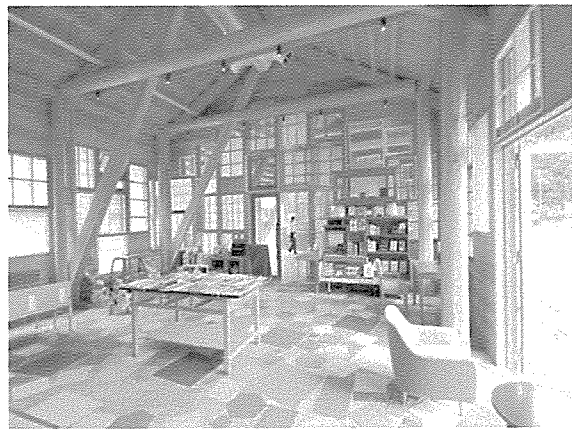
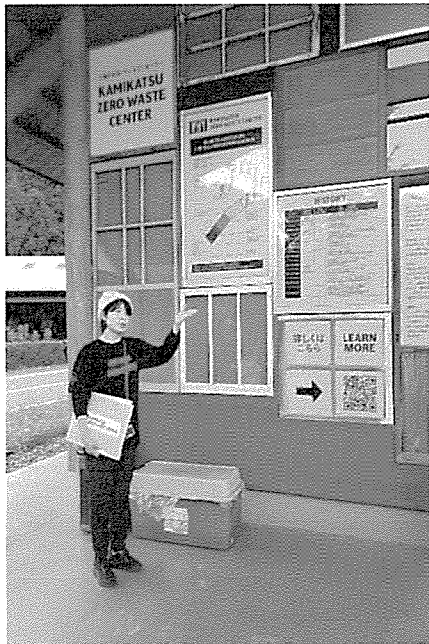
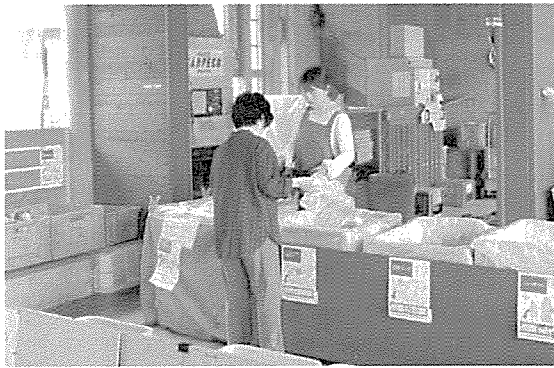
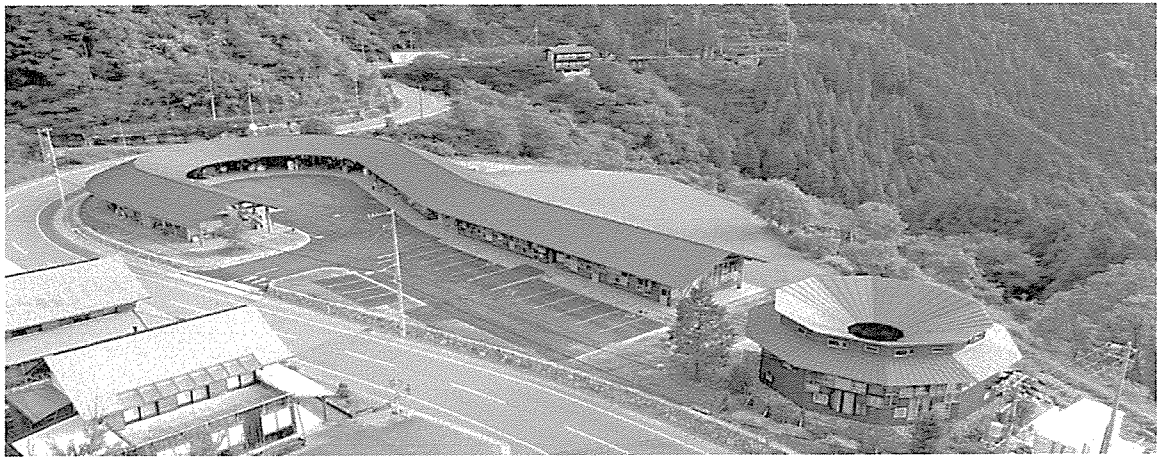
2. 男女共同参画の啓発事業では①IT分野のジェンダーギャップの解消にむけてオンライン講座の実施②アンコンシャスバイヤスセミナーの取り組みもが進んでいた。8項目に及ぶ他の取り組み資料から学ぶことが多いにあった。

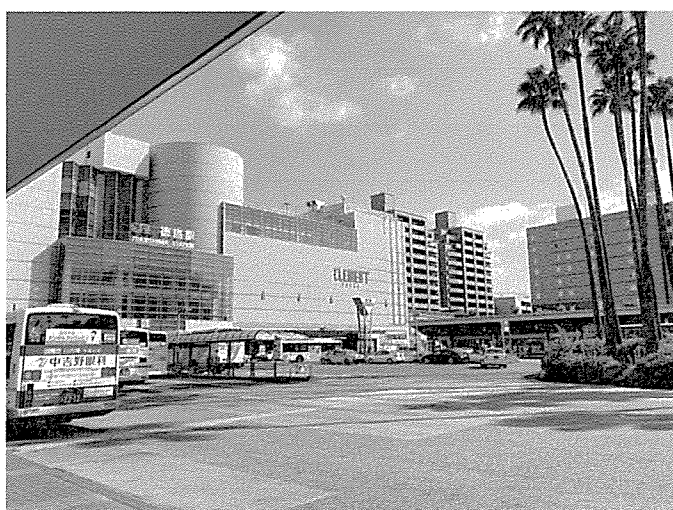


徳島市役所にて 内藤佐和子市長



ときわプラザにて 徳島県女性協議会のみなさんと





k.com・192000153

目黒女性団体連絡会国内研修 2023

発行 2023年12月19日

編集 目黒女性団体連絡会

代表 深山キクエ